

## 情報科学研究科支援経費「国際会議準備」報告書

平成 19 年 3 月 22 日

東北大学流体科学研究所(情報科学研究科協力講座)

教授 大林 茂

国際研究集会名 (和名) 第 4 回進化型多目的最適化に関する国際会議

(英文) The 4th International Conference on Evolutionary Multi-Criterion Optimization

開催期間 平成 19 年 3 月 5 日 ~ 平成 19 年 3 月 8 日 (4 日間)

開催地(会場) 宮城県宮城郡松島町松島字犬田 10-76 (ホテル大観荘)

主催者名 東北大学流体科学研究所

共催者名 東北大学情報科学研究科、宇宙航空研究開発機構、関西大学政策グリッドコンピューティング実験センター

### 進化型多目的最適化に関する国際会議について

近年、多目的最適化問題に進化論的計算手法が効率等の面から有効であることが示され、進化型多目的最適化として新しい学術分野が形成されると共に盛んに研究活動が行われている。進化型多目的最適化手法は、産業界での新しい設計手法として積極的に適用されており、产学が協調してこの学問分野を発展させている。このような状況のもとで、進化型多目的最適化に関する国際会議(EMO)は世界中の進化型多目的最適化に関する研究者・企業関係者が一堂に会し、活発な議論を通じて、相互の交流を深める場として企画された。第 1 回が 2001 年 3 月スイス、第 2 回は 2003 年 3 月ポルトガル、第 3 回は 2005 年 3 月メキシコにて開催され、今回第4回は宮城県松島にて開催された。

### 実行委員会・国際プログラム委員会

16 名(内 4 名が東北大学)の国内委員からなる実行委員会を組織し、準備にあたった。投稿論文の査読のために国内実行委員を委員長とし 101 名の国際委員からなる国際プログラム委員会を組織し、投稿論文を精査した。投稿論文は 124 件(30 カ国)より 65 編(24 カ国)を採択した。なお、Proceedings は、会議の開催に合わせ Springer より出版された。

### EMO2007 概要

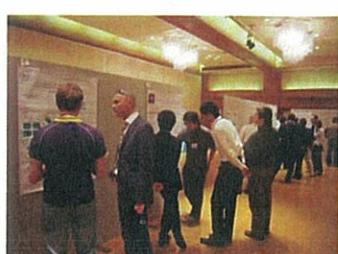
招待講演者 4 名に加え、26ヶ国より 96 名(内 60 名が海外より)の参加登録があり、口頭発表が 26 編、ポスター発表が 39 編行われた。多目的最適化に関わる重要なテーマや実問題への応用例について、最後の閉会の挨拶まで活発な議論が行われた。次回 2 年後の開催に向け、3 件の開催立候補があり、今後 EMO steering committee で開催地を決定することになった。



口頭発表の様子



学生表彰の様子



ポスター発表の様子



閉会時の集合写真